

中二国語科通信

昨年度に引き続き、今年度もほぼ毎月応募しています。

〔6月16日掲載〕

歌人 俵 万智〔国語〕

- 「好きなことを見つつけよう」
- 短歌は自由で創作もできる
- 読書は言葉の貯金
- アンテナを立てておこう

二組 黒木陽香里



「これだ!」という好きなものや好きなことがない。全部、中途半端に好きなのだ。テレビなどで毎日のように放送されているウクライナのように状況や人々がなく声。それを見て、自分は好きなことをなんでもできていることに気づいた。この幸せを無駄にしたいけないと思った。

十四歳の君へ わたしたちの授業

今回の「先生」である俵万智さんは、大阪府出身の元高校教師。1987年発行の第1歌集『サラダ記念日』が大ベストセラーとなり、世に知られるようになりました。「この味がいいねと君が言ったから七月六日はサラダ記念日」って、知りませんか?

その後、縁あって2016年から宮崎市在住。本校で国語の教員を務め、校長も務められた志垣澄幸先生は日本を代表する歌人ですが、その志垣先生とも交流があるそうです。

【僅差だったで賞】 勝者

- 1枚差 上別府壮旭・隈元雅己・仁部七帆
- 2枚差 泥谷和之進・高山碧衣・川添 葵
- 3枚差 笠原涼寧・平部里桜・権藤里奈

【大差だったで賞】 勝者

- 22枚差 尾方望桜・黒木道子
- 19枚差 川越風紗・石丸青葉
- 14枚差 室井健志・谷山紗友里・平田逢夏
- 14枚差 谷村 怜・入田真衣・松浦恕也



百人一首大会

7/22

第1号
令和4年8月17日
国語科2年担当
堀之内・篠間・奥池



鼻の下にちいさき汗の玉ならべ
カレーのたまねぎ炒めいる吾子



T町さーん
対戦相手の腕つか
んじゃだめですよぉ〜

決定的瞬間



これが本気の戦いであることは
彼らのかかとが物語っている



百人一首大会の様子は裏に続きます。



がる



シリーズ



くやし



男たち



最後の1枚に賭ける。

ハイ!

正しい手の挙げ
方です。



もめる。



品良くおだやかな対戦の様子。
これが本来のかるた大会だ!



「聞いてくれてありがとう」 狭間千穂

ラムマロン 第10回

思い返せば幼い頃から何かを書くことが好きでした。小学生の頃は家族新聞を作ってトイレに貼りだしていたし、中学時代は友達との交換日記が、一日に大学ノート十数ページ分にもなり、勉強時間を圧迫していました(タックル)。絵を描くのが得意な友達とタックルを組んで、私が原作を書き友達が絵を描いて漫画を作り友達で回し読み。一か月に三十通近くの手紙を書いて、たし、大学時代にはイギリスにペンフレンドもできました(「ペンフレンド」って、聞いたことあります?)。

書くことが好きな私はそのまます新聞社に入社しましたが、入社二年目でスポーツ担当になった時、「見たことを、感情を入れずに書け」と言われて悩みました。スポーツの感動を、どうしても私の言葉で伝えたい。でもそんなこと、入社二年目のペーパーに許されるはずもなく。バツバツと訂正された記憶があります。

ところが、高校駅伝の取材後、私の言葉がほぼそのまま採用された記事が掲載されたことがあります。その記事を見たある高校の陸上部の監督が、私の記事を褒めてくれました。その時は涙が出るほど嬉しかったことを覚えています(その方は、今も陸上に関わる偉い先生です)。

表現するって、本当に楽しいこと。産み出す苦しみと、世に出した後の責任は大きいけれど、それでもやはり自分の思いを吐き出せる場所があって、聞いてくれる人がいる、というのはなんと幸せなことだな、と思っています。